

長期持続的な ハピネス創造に向けて

CONTENTS

- 19 ハピネス創造プロセス
- 21 2030年に目指す姿
- 23 ESGマテリアリティ
- 25 資本強化に向けて

ハピネス創造プロセス

当社グループは、企業使命を原点に、6つの資本からなる経営資源を常に確保・増強しながら、ビジネスモデルを進化させ、事業を通じた社会への価値創造を目指していきます。

安全・安心の確保と企業行動規範の遵守をベースとしながら、「顧客ロイヤリティ」と「従業員ロイヤリティ」の循環と、継続的な投資による「施設やコンテンツなどが作り出す魅力的な空間」が、三位一体でビジネスモデルの成長ドライバーとなり、事業を通じた価値提供“ハピネスの創造”をしていくなかで、さらなる経営資源の強化につなげていきます。

さらに、ESGの観点によるマテリアリティに取り組み、事業の持続的発展を補完・強化することで、永続的な「ハピネスの創造」を実現します。

企業使命 P.3

自由でみずみずしい発想を原動力に
すばらしい夢と感動
ひととしての喜び
そしてやすらぎを提供します。

事業資本 競争優位性
抜群の立地に広大な土地を自社で所有

人的資本 競争優位性
顧客の満足を自らの喜びに感じる
ホスピタリティの高い従業員

知的資本

経営資源 P.25

社会関係資本 競争優位性
圧倒的なブランド力とクリエイティビティ
開発力を持つディズニー・エンタプライゼズ・
インクとのライセンス契約

自然資本

財務資本

継続的な投資による
経営資源の強化

ビジネスモデル P.5、7

事業活動
東京ディズニーリゾート全体の
付加価値を向上

- テーマパーク事業
- ホテル事業
- その他の事業

夢・感動・喜び・やすらぎのある
社会づくりに寄与する事業

- 新規事業

成長の源泉

高い顧客ロイヤリティ
ゲスト
満足度の向上

高い従業員ロイヤリティ
従業員
満足度の向上

施設やコンテンツなどが
作り出す魅力的な空間

**安全・安心の確保と
企業行動規範の遵守**

提供価値 P.21

ハピネスの創造

2030年に目指す姿

あなたと社会に、
もっとハピネスを。

テーマパークを含むリゾートのみならず、
社会を含めた多くの人々のために
ハピネスを創造し続ける

持続可能な社会の実現に向けて
役割を果たすことで、社会から望まれる
企業であり続ける

従業員が心から誇れる
企業であり続ける

サステナビリティ視点で、
事業の持続的発展を補完・強化

ESGマテリアリティ P.23

長期持続的なハピネス創造に向けて

外部環境(将来的な課題)

国内の総人口の減少

開発費/建築費の高騰

国内生産年齢人口の減少

気候変動/自然災害

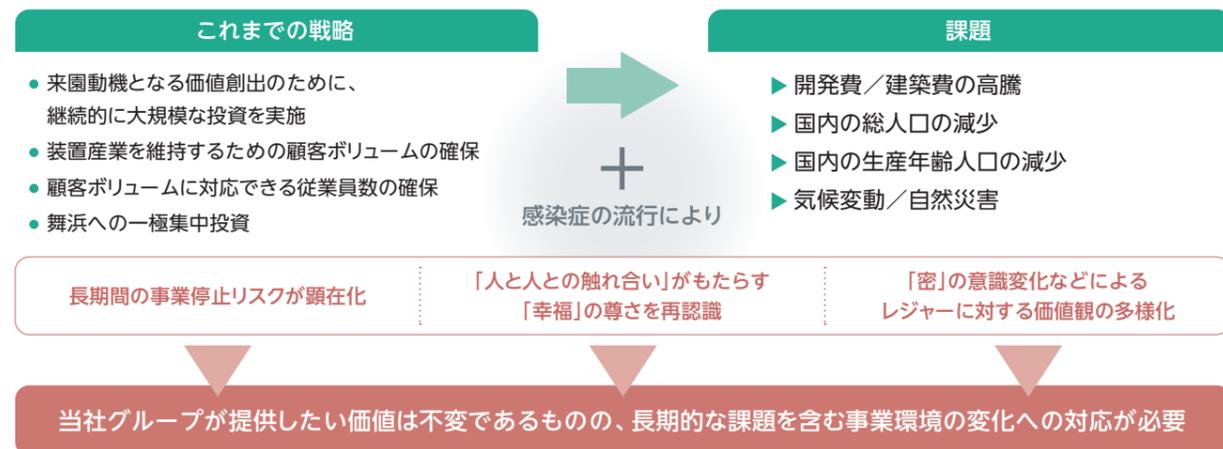
2030年に目指す姿

OLCグループが長期的に目指す成長の方向性を描いたものが、2030年に目指す姿「あなたと社会に、もっとハピネスを。」です。当社グループはこれまで、主にゲストなど、テーマパークとの関わりが深いステークホルダーに対してハピネスを提供してきましたが、今後はそれにとどまらず、当社グループと関わりのあるステークホルダーや、当社グループを取り巻く社会に対しても良い影響を与えられる存在になりたいという想いが込められています。

環境変化の認識

これまで当社グループは、舞浜に集中的に投資することでリゾートの魅力を上げ、収益の拡大を実現してきました。一方で、少子高齢化の進行による労働人口の減少や、2020年以降の感染症の流行によるレジャーに対する価値観の多様化など、長期的な課題を含む事業環境の変化への柔軟な対応が重要であると捉えています。

これからも当社グループが提供したい価値は不変ですが、よりサステナブルな事業構造へと転換を図り、長期持続的な成長と持続可能な社会への貢献の両立を目指します。



2030年に目指す姿の制定

当社グループは、長期持続的な成長と持続可能な社会への貢献を両立するサステナビリティ経営の実現に向け、提供価値であるハピネスを持続的に創造していくために、2030年に目指す姿「あなたと社会に、もっとハピネスを。」を定めています。

具体的には、既存事業に加え、新規事業などを通じて、リゾート以外にも価値提供の範囲を広げます。また、事業に関わりが深い社会課題に取り組むことで、企業としての長期持続的な成長につなげるとともに、持続可能な社会にも貢献します。さらに、従業員の働きがいを高め、会社、事業、その先の社会へとハピネスの好循環を創出していきます。

あなたと社会に、もっとハピネスを。

- ▶ テーマパークを含むリゾートのみならず、社会を含めた多くの人々のためにハピネスを創造し続ける
- ▶ 持続可能な社会の実現に向けて役割を果たすことで、社会から望まれる企業であり続ける
- ▶ 従業員が心から誇れる企業であり続ける



目指す姿を実現するための事業の方向性

2030年に目指す姿を実現するための事業の方向性として、既存事業と新規事業の両軸の取り組みによる相乗効果・好循環を図ります。

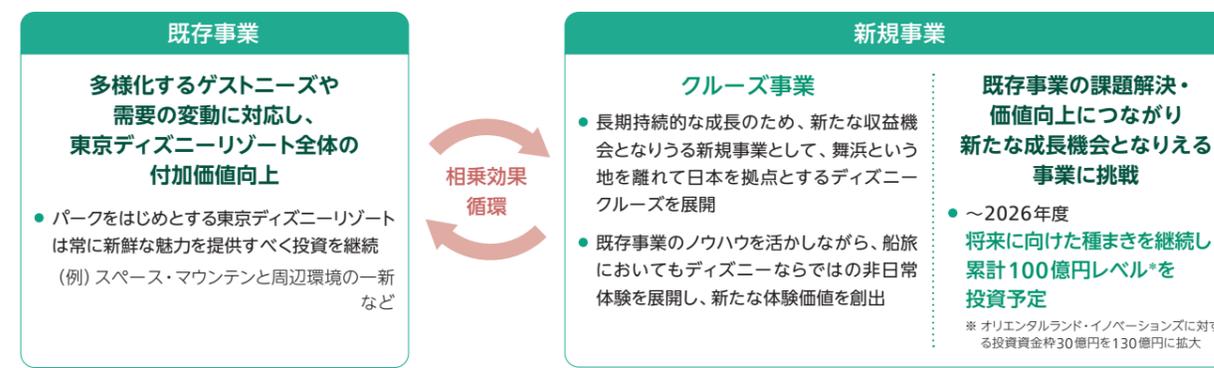
既存事業では、多様化するゲストニーズや需要の変動に対応し、東京ディズニーリゾート全体の付加価値向上を図ります。そのために、これまでの楽しみ方にとらわれず、顧客との接点の多様化など、さまざまな手法を検討していきます。

新規事業では、既存事業の課題解決や価値向上につな

がり、かつ成長機会につながる新規事業に挑戦していきます。将来に向けた種まきを継続し、2030年までに新しい収益の柱として1セグメント化を目指します。

また、「誰もが働きがいを感ぜられる環境づくり」を経営のコミットメントに掲げ、従業員が生き生きと、自分らしく働ける環境の整備を推進していきます。

そして、今後の成長につながる機会を取り込み、リスクを排除する項目を「ESGの8つのマテリアリティ」として選定し、その取り組みを推進していきます。P.23



* 東京ディズニーリゾート内の、新規収益機会の獲得に向けた投資を含む

経営のコミットメント：誰もが働きがいを感ぜられる環境づくり



日本におけるディズニークルーズの展開

オリエンタルランドは、新たな収益機会となりうる新規事業として、ディズニー・エンタプライゼズ・インクと、クルーズ事業に関するライセンス契約を2024年7月に締結しました。

これまで東京ディズニーリゾート事業を通じて非日常の空間と体験を提供していましたが、今後は船旅においても、「ファミリーエンターテイメントクルーズ」という、当社ならではのレジャーを実現します。

当社は日本を拠点とするディズニークルーズの開発

および運営に関する権利を有することとなり、2025年度から造船を開始し、2028年度の就航を目指します。就航から数年後には、年間売上高約1,000億円、年間乗客数は約

40万人を見込んでいます。なお、当該事業による総投資額は約3,300億円となります。



ディズニークルーズ(イメージ)

ESGマテリアリティ

当社グループでは、「持続可能な社会への貢献」と「長期持続的な成長」を両立するサステナビリティ経営の実現のため、ダブル・マテリアリティの原則に則り、「社会、ステークホルダーの視点」と「企業へのインパクトの視点」で、成長につながる機会を取り込み、リスクを低減するための8つのESGマテリアリティを選定しています。それぞれ戦略および指標・目標(2030年KGI)を設定しており、着実に推進するために、2026年KPI、2024中期経営計画のKPIを定め、年1回以上、取締役会および経営会議に進捗を報告しています。

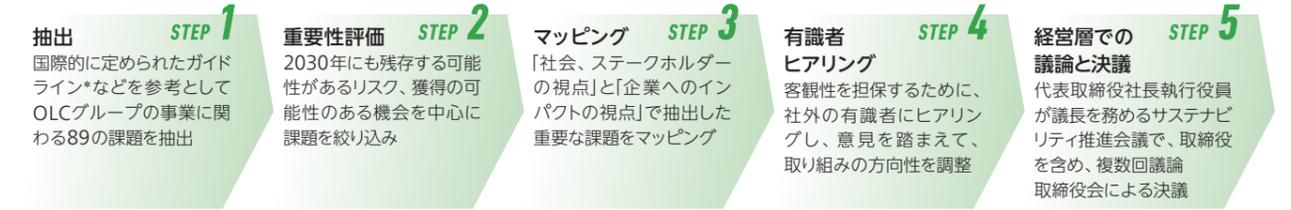
なお、「従業員の幸福」と「子どものハピネス」は当社グループならではの取り組みとして推進しています。

[KPI達成に向けた2023年度までの進捗状況は、こちらをご覧ください。](https://www.olc.co.jp/ja/sustainability/esg_materiality.html)
https://www.olc.co.jp/ja/sustainability/esg_materiality.html

社会	
 <p>従業員の幸福</p>	<p>戦略</p> <p>機会</p> <ul style="list-style-type: none"> 優秀な人材の継続的な雇用 変化やビジネスチャンスへの対応力強化 <p>リスク</p> <ul style="list-style-type: none"> 人材不足 人材の流出 <p>これからも働きたい場所として選ばれ続けるために、「仕事のやりがい」(働くことによって得られる喜びや達成感)の向上と、「働きやすさ」(社内環境や制度)の整備を目指す取り組みを実施</p> <p>指標・目標(2030年KGI)</p> <ul style="list-style-type: none"> 従業員の「働きがい」の向上 「エンゲージメント調査」総合スコア71(OLCグループ全体)
	<p>戦略</p> <p>機会</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業活動において重要な子どもに関わる社会課題の解決 <p>リスク</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもを取り巻く社会課題の深刻化 <p>未来を担う子どもたちの夢や心を育むことによって豊かな社会を実現するために、東京ディズニーリゾート事業を通じた子どもたちの信頼や共感を育む取り組みや、子どもに関する社会課題の解決への取り組みを実施</p> <p>指標・目標(2030年KGI)</p> <p>東京ディズニーリゾート</p> <ul style="list-style-type: none"> 日々の生活を潤し、心豊かな子どもを育てる活動の実施 <p>社会貢献活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 未来をひらく子どもたちを育む・支える活動の実施
	<p>戦略</p> <p>機会</p> <ul style="list-style-type: none"> 変容する社会や顧客ニーズへの対応による体験価値向上 <p>リスク</p> <ul style="list-style-type: none"> ダイバーシティへの対応不足による体験価値の低下 人権尊重への対応不足によるリスクの顕在化 <p>変容する社会や顧客ニーズの変化に対応し、多様な価値観を尊重した事業活動を展開するために、ベースとなる人権尊重への体系的な取り組みや、既存製品・サービスの見直しと多様性に配慮するための仕組みの構築などの取り組みを実施</p> <p>指標・目標(2030年KGI)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特定した重要人権課題に対する人権デューデリジェンスプロセスの構築と運用 多様性を尊重した事業活動ができる仕組みの構築
	<p>戦略</p> <p>機会</p> <ul style="list-style-type: none"> サプライチェーン全体での環境や社会への配慮による競争力拡大 <p>リスク</p> <ul style="list-style-type: none"> サプライチェーンへの対応不足によるリスクの顕在化 <p>取引先と協働し、持続可能な調達を実現するために、方針整備を実施</p> <p>指標・目標(2030年KGI)</p> <ul style="list-style-type: none"> 一次サプライヤーへ「調達方針」「お取引先行動指針」の周知と承認:100% 社内で特定した品目について持続可能な原材料調達:100%

ESGマテリアリティ特定プロセス

当社グループでは、マテリアリティの特定にあたり、以下のプロセスで議論し策定しました。



* GRIスタンダード、ISO26000、SASBなど

環境	
 <p>気候変動・自然災害への対応</p>	<p>戦略</p> <p>機会</p> <ul style="list-style-type: none"> 気候変動に適応することによる新たな体験価値の創出 <p>リスク</p> <ul style="list-style-type: none"> 異常気象や自然災害の増加による事業への影響の拡大 <p>再生可能エネルギーの創出や調達、省エネルギー活動、環境配慮設計の導入などにより、気候変動リスクの低減に努めるとともに、気候変動に適応し強靭性を高めることで、事業の持続可能性を高める取り組みを実施</p> <p>指標・目標(2030年KGI)</p> <ul style="list-style-type: none"> 温室効果ガス排出量スコープ1・2 2013年度比:51%削減 *温室効果ガス排出量 2050年度までにネットゼロ
	<p>戦略</p> <p>機会</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境価値も備えた新製品やサービスの提供による新たな需要の創出 <p>リスク</p> <ul style="list-style-type: none"> 資源枯渇や資源価格の高騰 <p>循環型社会の構築に貢献するために、製品・サービスの省資源化と廃棄物削減、持続可能な資源利用などの取り組みを実施</p> <p>指標・目標(2030年KGI)</p> <ul style="list-style-type: none"> 廃棄物総量削減(重量)2016年度比:10%削減 リサイクル率(実績):80%
	<p>戦略</p> <p>機会</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会情勢変化への対応力強化 <p>リスク</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たなニーズの変化や潜在リスクへの対応力の低下 <p>事業活動を進化させ、持続可能な社会に資するために、ステークホルダーに対して適切で開かれた情報開示と対話を大切にしている取り組みを実施</p> <p>指標・目標(2030年KGI)</p> <ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーに対する適切で開かれた情報開示と双方向でのコミュニケーションを大切にすることで、事業活動を進化させ、持続可能な社会に資する活動の実施
	<p>戦略</p> <p>リスク</p> <ul style="list-style-type: none"> 適切な意思決定機能の欠如による、成長機会や社会的信用の低下 <p>各種法令およびコーポレートガバナンス・コードを遵守し、変化に柔軟に対応し、成長できる体制の構築</p> <p>指標・目標(2030年KGI)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種法令およびコーポレートガバナンス・コードを遵守できており、変化に柔軟に対応し、成長していける体制となっている

長期持続的なハピネス創造に向けて

資本強化に向けて

当社グループの経営資源である6つの資本は、それぞれが価値創造の源泉となっています。なかでも、抜群の立地に自社で所有する広大な土地(事業資本)、圧倒的なブランド力とクリエイティビティや開発力を持つディズニー・エンタプライゼズ・インクとのライセンス契約(社会関係資本)、顧客の満足を自らの喜びに感じるホスピタリティの高い従業員(人的資本)など、競争優位性を有しています。

2024中期経営計画においても、これら6つの資本を最大限に活用した事業活動を展開することで、提供価値であるハピネスを創造していきます。また、2030年に目指す姿を実現するために特定したESGマテリアリティの取り組みを推進することで、長期的にさらなる経営資源の強化へとつなげ、持続的なハピネスの創造を実現します。

* 2023年度のデータを掲載しています。

関連するESGマテリアリティ P.23



事業資本 競争優位性

都市部から好アクセスの立地に広大な土地を所有し、近隣の1都4県に所得の高い約3,000万人が居住する巨大マーケットを有しています。

また、テーマパーク、ホテルなど多様な施設で構成される東京ディズニーリゾートでは、広大な非日常空間で生み出されるバリエーション豊かな体験が、ゲストのハピネスの創造につながっています。さらなるテーマパークの魅力向上に向けて、2024年6月には、東京ディズニーシーに約14万m²*1の「ファンタジースプリングス」を開業しました。

▶ 広大な土地を自社で保有	約200万m ²
▶ テーマパーク累計入園者数	8億人以上
▶ テーマパークアトラクション数*2	84施設
▶ ディズニーホテルの総客室数	約3,500室

*1 総開発面積
*2 1983年当時 32施設(東京ディズニーランド)

2024中期経営計画での強化ポイント P.31

- [パークの魅力向上]
- ファンタジースプリングス開業
- イベント等の規模を感染症流行時よりも回復

関連するESGマテリアリティ P.23



人的資本 競争優位性

OLCグループにとって人材とは、事業の価値を創出していくうえで何よりも重要で不可欠なものです。

特に東京ディズニーリゾートの経営・運営においては、自社の事業に誇りを持ち、多様な雇用形態と職種で、それぞれの専門性を活かして働く従業員こそが価値創造の源泉です。従業員が変化に対応する力をつけ、成長することが、ゲストサービスの質を高め、結果として事業価値の向上に貢献しています。

▶ 連結従業員数(2024年3月末)	34,376名
OLC単体従業員数	25,995名
● 社員	3,246名
(総合職1,348名、テーマパークマネジメント職1,158名、専門職740名)	
● テーマパークオペレーション社員	2,385名
● 嘱託社員	334名
● 出演者	804名
● 準社員	19,226名

2024中期経営計画での強化ポイント P.35、41

- 組織マネジメント強化
- キャストのあり方の見直し
- 心と体の健康
- 快適な施設・デジタル環境

関連するESGマテリアリティ P.23



知的資本

高いゲスト満足度を維持しながら運営するためには、イマジネーションを具現化するチャレンジのDNAと、円滑なオペレーションによる安全管理体制が必須です。

日々品質の改善・向上に努め、これまで約40年間にわたり、安心・安全な東京ディズニーリゾートの運営を続けています。

また互いに称賛し、高め合う風土を基盤とし、新たな発想と組織間の協働によりさらなる体験価値を創出します。

▶ 東京ディズニーランド累計運営日数(2024年3月末まで)	14,171日
▶ 施設全体の点検/整備を行う技術者数*3	約1,000名
▶ 会社表彰受賞者数	約400名
▶ ドリームアップ アイデア!*4	658件

*3 OLC技術者のほかグループ会社、協力会社の社員含む
*4 組織や役割を超えてすべての従業員がアイデアを気軽に提案できる制度

2024中期経営計画での強化ポイント P.32

- 新たな発想によるゲストサービスの向上
- オペレーションの改善
- 業務改革を推進できる人材・組織づくりの推進
- スリムかつ効率的なパーク運営

関連するESGマテリアリティ P.23



社会関係資本 競争優位性

圧倒的なブランド力、クリエイティビティ、開発力を持つディズニー・エンタプライゼズ・インクとの長期にわたるライセンス契約は事業の根幹です。培ってきたステークホルダーとの強固な信頼基盤やリレーションを通じて、新たな価値を創造します。

▶ ディズニー・エンタプライゼズ・インクとのライセンス契約	最長2076年まで
▶ ゲストからのご意見*5	約16,000件
▶ 1次サプライヤー数*6	年間約2,500社
▶ テーマパークのオフィシャルスポンサー企業との契約年数	開園以来最長41年
▶ 機関投資家との面談	延べ約1,000名

*5 電話、メール、アンケートなどでいただいたゲストからのご意見
*6 OLCグループが取引をするお取引先の数

2024中期経営計画での強化ポイント P.36、48

各ステークホルダーの取り組みを推進していくための社内体制づくりおよび、着実な実行

関連するESGマテリアリティ P.23



自然資本

ハピネスを持続的に創造し続けるためには、土台となる地球環境への負荷軽減は必須です。東京ディズニーリゾートの事業活動には、エネルギーや水、廃棄物管理など、ひとつの街のような多様な機能が含まれています。そのため気候変動や自然災害が事業に与える影響の緩和・適応に向けた取り組み、循環型社会の構築に貢献する取り組みを推進します。

▶ エネルギー使用量*7	
電力	267,261千kWh (うち再生可能エネルギー 51,937千kWh)
都市ガス	28,547千m ³ (うち再生可能エネルギー 564千m ³)
燃料・輸送燃料(原油換算)	1,080kl
▶ 取水量(上水)*7	4,048千m ³
自社設備でのリサイクル水	960千m ³

*7 東京ディズニーリゾートの事業活動を領域として算出した数値です。

2024中期経営計画での強化ポイント P.49

- 再生可能エネルギー調達、創出
- 省エネルギー活動
- 食品ロスの削減
- 使い捨てプラスチックの削減

関連するESGマテリアリティ P.23



財務資本

創出されたキャッシュは、コストコントロールをしつつも、必要と判断した東京ディズニーリゾートのさらなる魅力向上、ESG、新規事業の種まきのための投資や株主還元などに分配します。

▶ 営業キャッシュ・フロー*8	1,669億円
▶ 設備投資額	720億円
▶ ROE	13.5%
▶ 格付	(株)日本格付研究所(JCR): AA (株)格付投資情報センター(R&I): AA-

*8 親会社株主に帰属する当期純利益+減価償却費

2024中期経営計画での強化ポイント P.35、46

- ファンタジースプリングスを含む、リゾートの魅力向上に向けた成長投資の実行
- 安定配当(2019年以前の水準に戻すことを目指しており、2023年度に達成)
- 持続可能な運営体制を目指した継続的な資源コントロール

関連するESGマテリアリティ P.23

